

平成21年度能美市地域福祉活動計画  
第6回アクションプラン推進協議会及評価委員会

日時：平成22年2月9日（金）午後5時30分～

場所：辰口健康福祉センター

出席者：高塚亮三（福祉施設等）、西川方敏（市ボランティア連絡協議会）、井上徹（市民生委員児童委員協議会）、澤田時弘（市町会長連合会）、宮田明（市自治公民館協議会）南昭憲（市自治公民館協議会）、喜多泉（子育てに関わる団体）  
田中邦一（学識経験者）、荒井昌宏（学識経験者）  
欠席者：近藤沙夜里（子育てに関わる団体）  
事務局：宮本会長、宮田事務局長、新川、海道、南野、谷

1. 開会の挨拶

<高塚会長>

ちいきふくしウィークに向けて、いよいよ大詰めであり、各AP委員会でも準備をしていると思う。地域福祉フォーラムとして、今年度は2度目になるわけで、地域福祉活動計画も段々と方向性が見えてきたこともあり、みなさんと協力して2年目をしっかり締めくくりたい。

2. 各AP委員会からの報告

**私たちのボランティアセンターづくり委員会**

西川：1月20日に委員会を開催し、ちいきふくしウィークの企画について協議したが、まだ明確になっていないところもある。司会進行ほか役割分担など形式的なことを決めたが、実際に参加者を交えてどんなふうに話し合いを進めるか、詳細なところは次回の委員会で協議することになっている。

**ネットワークづくり委員会**

井上：1月7日と2月4日に委員会を開催し、ちいきふくしウィークの企画について協議した。大まかな内容として2部構成とし、前半は、昨年8月から12月まで開講していた地域福祉委員会活動ヒント探し講座の中で住民流支え合いマップづくりを指導した木原孝久氏を講師に招いて、マップづくりの講評をしてもらう。後半は、地域福祉について、町会と福祉の関係を話し合う機会にするため、その導入の部分に町でよくみられるふだんのこまりごとの1コマを寸劇にすることにした。

**支えあいのしくみづくり委員会**

喜多：1月22日に委員会を開催した。来年度からのファミリー・サポート・センターの運営委員会について設置要綱を確認したり、委員の人選について話し合った。運営委員には、支えあいのしくみづくり委員会から正副会長が出ることにして、協力会員・依頼会員へは、事務局が声掛けをする、また、今後障害を持つ子どもへの関わりも考えていくので、障害者福祉の専門職の方への委員の依頼も考えている。  
ウィークの企画については、内容は大体決まっていたので、細かい部分を確認して、あとは前日に集まって、当日の準備をすることになった。

## 人づくり委員会

高塚：本日2月9日の午前中に委員会を開催した。ウィークの企画は、まなびフェスタ2010の福祉分科会も兼ねており、まなびフェスタ全般の確認をした。また、助言者を招くので、助言者にどんなことを話してもらうかなど詰めの協議をした。

### 3. よろっさ やろっさ つなごっさ！ちいきふくしウィークについて

#### ①共通資料の作成について（資料2参照・下記補足説明）

事務局：それぞれのプログラムごとに資料が必要ではないかという話もあったが、全プログラムがつながって1つだということで、1週間を意味付ける上でも共通資料を作成した。これをそれぞれの会場で配付したり、ウィークに先立ってご案内するところには、文書に添えて送付しようと思う。

田中：事務局の説明を確認すると共通資料は参加者全員に配布するということでよいか。

事務局：参加者全員に配付したいと思う。

高塚：資料の表紙裏面の各AP委員会委員長からのコメントは、文字数はどれくらいを想定しているか。

事務局：あまり文字が細かくならないようにとも思うが、100字～120字程度はどうか。

井上：各AP委員会からのコメントとは、どういうものがよいのか。市民のみなさんに参加してもらえるような宣伝やPRのようなものか。

高塚：AP委員会の1年を通しての思いなのか、ちいきふくしウィークへの思いなのか。

西川：事前にご案内する文書に添える資料でもあるので、資料を見て、参加してもらえるようなコメントも必要だと思う。

事務局：ウィークのPRとしても考えられるが、地域福祉活動計画の2年目の取り組みを知ってもらう機会でもあるので、単にイベントのPRだけにしない方がよいのではないかと思う。

西川：各AP委員会からのコメントと全体として2年目の取り組みを総括するようなコメントが、別々にあった方が書きやすいのではないか。

高塚：そうした場合は、全体としてのコメントはAP推進協議会から代表して書くのか、社協会長含め事務局が、書くことが良いのか、どちらだろうか。

事務局：それでは、前文として、社協事務局が書くことにし、各AP委員会の委員長はそれぞれ思いを書くという形にしたい。

また、それぞれのプログラムの最後には、参加者に簡単なアンケートを書いてもらうことと、プログラムを終えて、事務局がその日のまとめを「瓦ばん」というスタイルで、その都度早急につくって、できるだけ次の日に出して、どなたにでも見てもらえるようにしたいと思う。

澤田：共通資料の中のプログラム3の内容のことだが、寸劇のテーマが抽象的に書かれているので、興味を引くようにもう少し具体的にテーマを出しても良いのではないか。

事務局：一人暮らし高齢者のゴミ出しの問題というテーマをもう少し出すことにする。

事務局：他に各プログラムの内容の部分で何か気付かれて、訂正などあったら、いろいろとご案内も発送したいので、できれば、明日中に連絡を頂戴したい。

②3月6日（土）福祉のまちづくり談義について（資料1参照・下記補足説明）

事務局：前回の協議では、前半に各AP委員会の報告、それを受けて講師のコメント、その後、会食しながら自由談義という流れということだった。当初、予定した講師は日程があわないとのことで、資料1に挙げている水野雅男氏を提案したい。水野氏には、市民の1つひとつの活動が、まちづくりにつながっていて、計画で進めていく「まちづくり」というような話をしてもらいたいと考えているが、よろしいか。また、これでよろしければ、開会挨拶、そして、ウィーク全体のまとめを含めた閉会の挨拶について、どなたが担当するか協議していただきたい。

高塚：事務局の案はあるか。

事務局：できれば開会閉会の挨拶は、AP推進協議会の正副会長でお願いしたい。

高塚：会長が開会挨拶で、まとめと閉会挨拶は副会長ということになるか。

事務局：そのようにお願いしたい。

高塚：自由談義は、テーブルごとで行うので、まとめとして話すのは難しくないか。

事務局：ちいきふくしウィーク全体のまとめであり、先の各AP委員会の報告や瓦ばんを踏まえて話してもらえたらと思う。

田中：会食も入れながら、ざっくばらんな自由談義ということだが、送迎バスなども配慮されるのか。

事務局：できるだけ参加しやすいように、会場施設の送迎バスをお願いする。

③参加者募集の案内について

事務局：当初、各種団体から、何名かの参加というような動員はかけないということにして

いたが、ご案内という形で、町会長と公民館長、他各福祉団体等に対し、事前にご案内文書と共通資料を送付したい。また、各AP委員会のプログラムにおいて、特に関心があるような団体や参加をお願いしたいという方々には、その旨を強調したような、別の案内等も一緒に同封して送付したい。

喜多：支えあいのしくみづくり委員会では、今度、子育て支援やファミリー・サポート・センターに関わる方の研修会があるので、その会場でご案内チラシを配付することになっている。

事務局：他にテレビ小松や新聞、市内無線等でPRすることを予定している。また、皆さんには、ご協力をお願いしたい。

#### ④のぼり旗作成について（資料3参照・説明）

協議の上、デザイン構成（文字・色あい）決定

#### 4. 今後の予定

\*私たちのボランティアセンターづくり委員会

・・・2月17日（水）午後7時～ 寺井地区公民館

\*地域福祉ネットワークづくり委員会

・・・2月17日（水）午後7時30分～ ふれあいプラザ

\*地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

・・・3月9日（火）午後10時～ 辰口健康福祉センター

\*地域福祉人づくり委員会

・・・2月27日（土）午後2時30分～ 根上健康福祉センター

#### 5. その他

次回AP推進協議会の開催について

事務局：ちいきふくしウィークが終わって、各AP委員会の反省や1年の総括があつてから、AP推進協議会を評価委員会とは別に開くかどうかについて協議してもらいたい。

高塚：各AP委員会が、評価委員会に1年の報告として提出する様式はどうするのか。

事務局：昨年度と同じ様式としても良いかと思うがいかがか。

高塚：昨年度と同じ報告様式でまとめるなら、ちいきふくしウィーク後に各AP委員会が開催され、その報告様式が提出されれば、AP推進協議会を開かないで、そのまま、評価委員会のみで開催が良いと思う。

評価委員会の開催

日時：平成22年3月17日（水）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

●文中のAPとは「アクションプラン」をさす

●3月17日（水）を3月24日（水）に変更した